

2022年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 エコベル研究会

代表者・役職名 氏名 山澤ほなみ・会長

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

エコベルを 作って 鳴らして 癒されて、みんなつながろう

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

公立小学校の教員だった前会長と元教え子たちの同窓会をきっかけに立ち上げた会。自分達の抱える問題と社会の問題が相関関係にあることに気づき、世代を越えて協力し合えるつながりを作って行こうと2016年4月ミュージックベル研究会を立ち上げる。現在、SDGs活動も視野に入れエコベル研究会として活動中。会員数10名。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

音楽を通してのコミュニティづくり、居場所づくり、新しい文化づくりを目的としています。
世代間ギャップを乗り越えた取り組みやコミュニティづくり、文化や創造的な生き方を試行していき、それにより、今問題になっている日本の少子高齢化による問題解決のモデルケースになりうるのではないかと考えました。音楽を通してのコミュニティづくり、居場所づくり、新しい文化づくりを目的としています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ・エコベル演奏や練習などを通じて会員相互の親睦を深めていきます。
- ・ワークショップやコンサートの企画・運営をし、地域の子どもたちやお年寄りに参加してもらい一緒に遊んだり、演奏を聴いてもらったりします。
- ・リサイクル・リユースの可能性を考え、誰もが簡単に調律できるベルの作成方法を探るとともに、地球環境を考えるSDGs活動につなげていこうと思っています。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

有償無償のものを合わせ年間25回の演奏、8回のワークショップ、今年こんなにも多くの機会がいただけたことは本当にありがたいことだと思います。いっそう音楽の心に及ぼす力や文化を享受できることの喜びが身に染み込んだ一年。その一方、同じ音楽をやっても熱量や考え方の行き違いでヒートアップしてしまうと楽しくできなくなってしまうことも体験してきました。このコロナ禍、次々と催し物が中止に追い込まれる中、世の中にとって価値ある舞台を提供していくことと自分たちの音の追求を同時進行させていくのは至難の業であり、予算もなければ人も頼めない、というところでこの市民団体も苦労しているのだということを痛感しました。また、団体のリーダーがふれずに責任を持つことの大切さと同時に助成金制度のありがたみも痛感した一年でした。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

一番の課題だった資金集めは2年目に入り安定してきました。しかし、いつまでも助成金に頼ってばかりはいられないため、自活できる道を探っていくかねばなりません。今後、同じような「強い思い」を持って楽しく活動できている団体と精神的に支え合い情報交換などをしていくことが重要だと感じました。
また、これからの音楽活動には演奏以外にもIT操作スキル、経営手腕を高める勉強も必要です。
エコベルには人々を結びつける力や、人々の硬くなった心がホッと癒され前向きに背中を押してくれる効果があります。その力で、今後は環境問題の勉強もしつつ、地域の人々と協力して街を元気にしていく方法を探りながら、皆が幸せになる暮らし方を音楽とともに伝えていく舞台を創り、伝えていくことを考えています。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

